

教育相談おおさか

私たちは子ども・青年たちに寄り添い
その立ち上がりをめざします

事業概要

♠ ご家族・本人との相談

年間1,000件前後の相談

♠ 講演と無料相談会

これまで府内43か所1,878名の参加

♠ 教職員との相談・連続講座

教職員向け連続講座

♠ 家族交流会

社会的ひきこもり家族の交流と学習



事業の目的

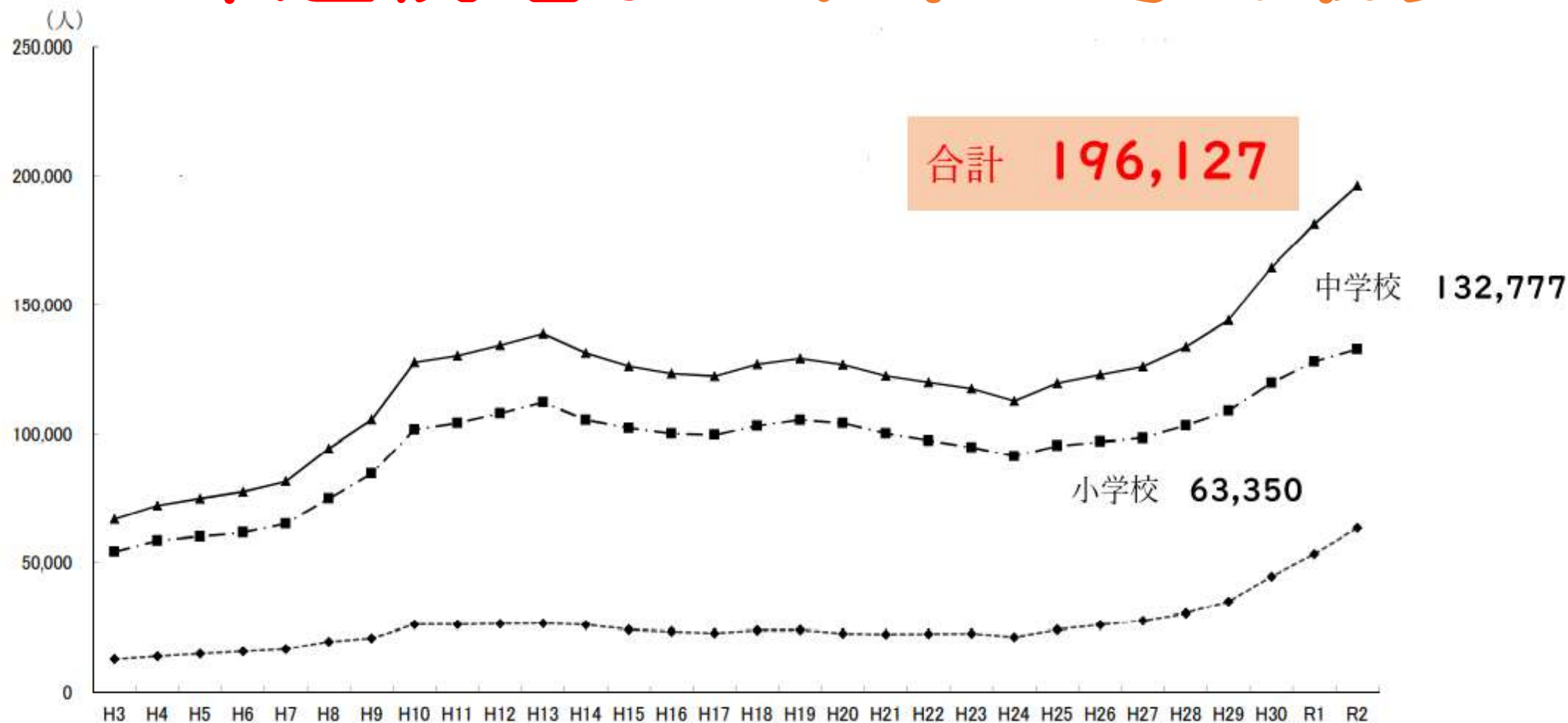
学校に行きたくてもいけない」
「働きたくても外に出ることが
できない」という
子どもや若者が

自分の力で立ち上がり
「豊かな学校生活」や
「社会生活の喜び」を
感じてもらうこと

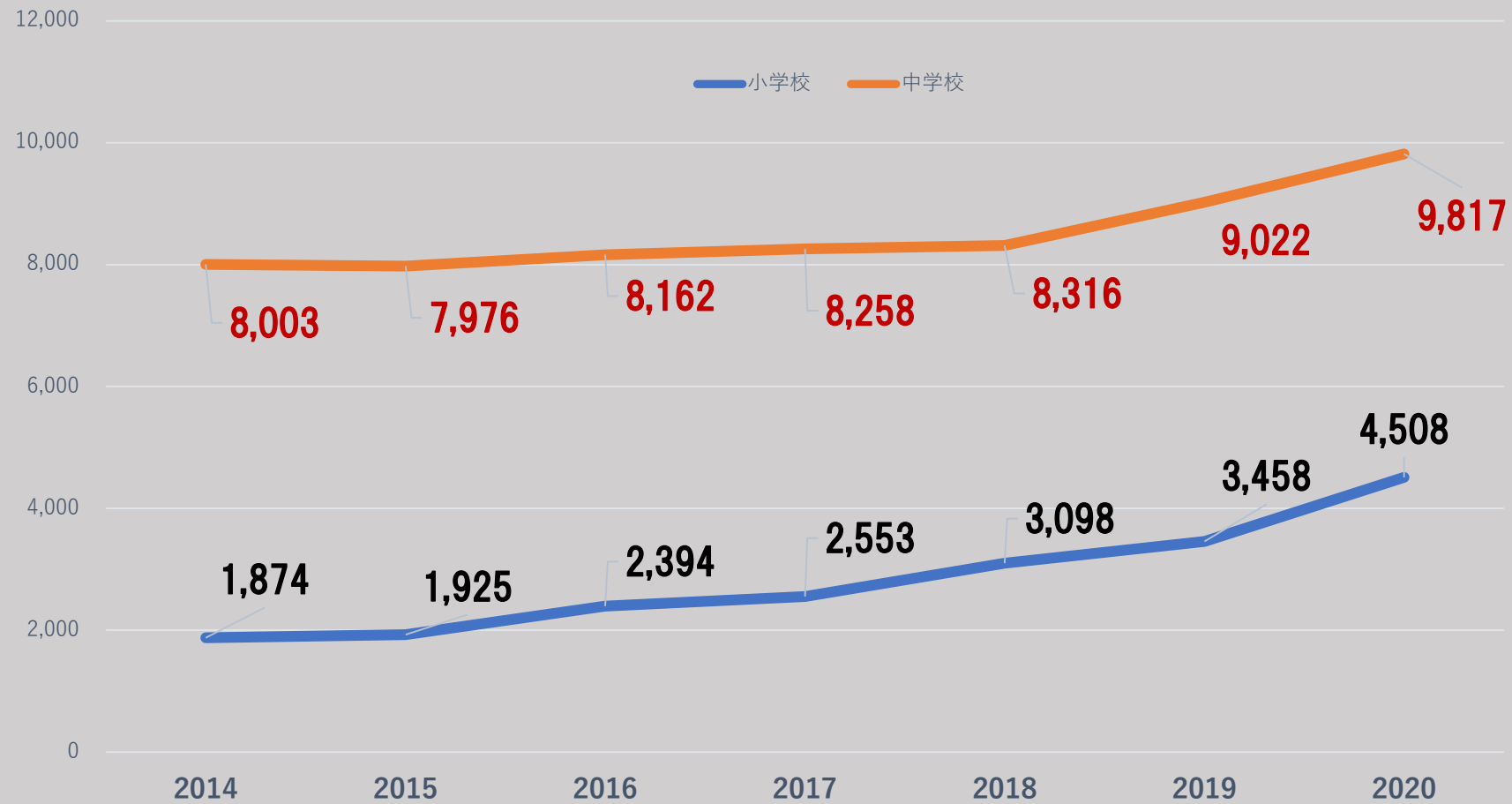
小中学校の不登校児童生徒数

<文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」2021.10.13>

8年連続増加 今年も過去最多

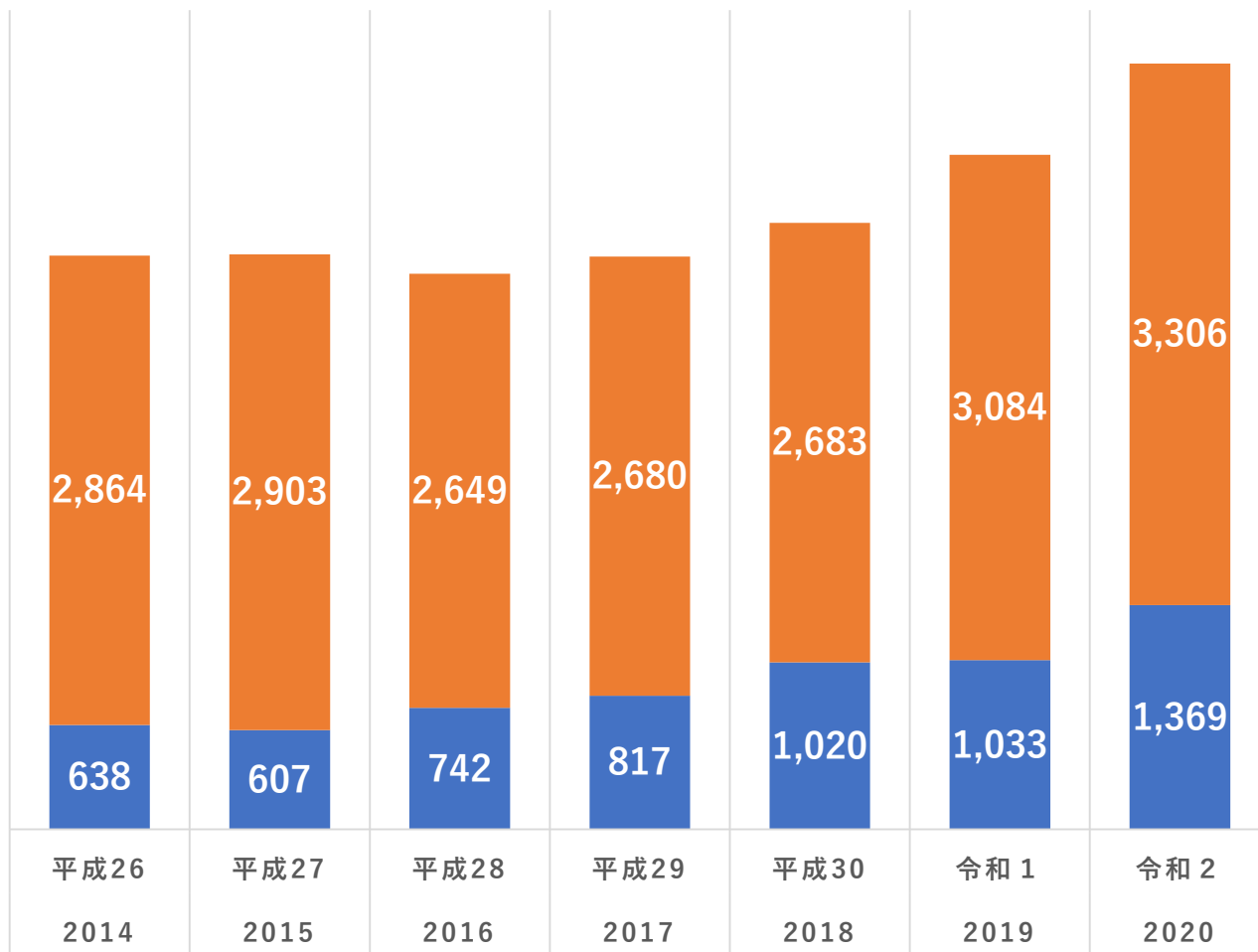


大阪府 《小・中学校 不登校児童生徒数》



大阪市 不登校児童生徒数の推移

■ 小学校 ■ 中学校



◆ **7年前と比べ**
小学生が638 → 1,369
2.15倍の増加

◆ **在籍比率**
小学生 1.19%
約87人に1人
中学生 6.48%
約15人に1人

市内すべての中学校で
各クラス2～3人以上の
不登校生がいる

ひきこもり・不登校数

中高年（40～64歳） **61万3千人**

内閣府「生活状況に関する調査」2019.3

若年（15～39歳） **54万1千人**

内閣府「若者の生活に関する調査」2016.9

高校生（15～18歳） **5万人**

文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」2021.10

小中学校（7～15歳） **19万6千人**

文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」2021.10

社会的ひきこもり
115万4千人

コロナ感染防止対策をすすめる



- ※ 空調整備改修
- ※ 飛沫防止ボード
手指消毒
- ※ 電話相談活用

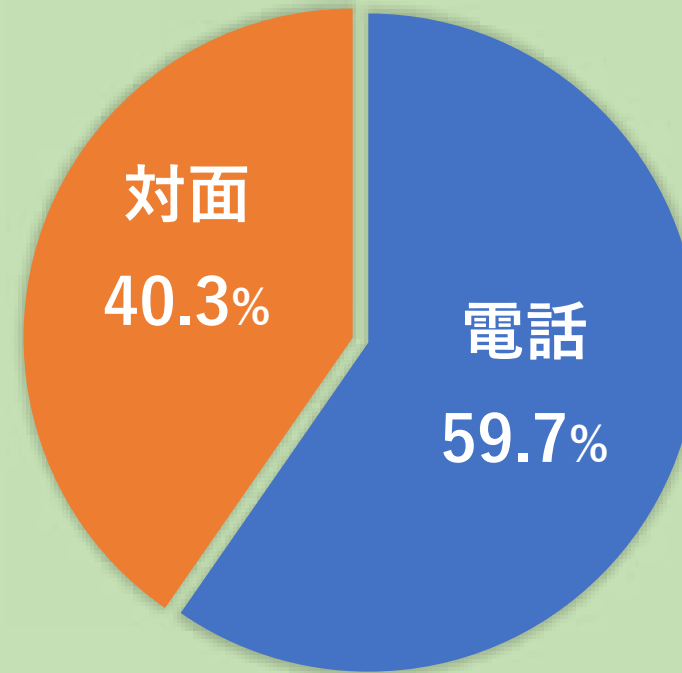


21年度 のべ相談件数

523件

《20年度比 81.8%》

21年度 のべ相談件数

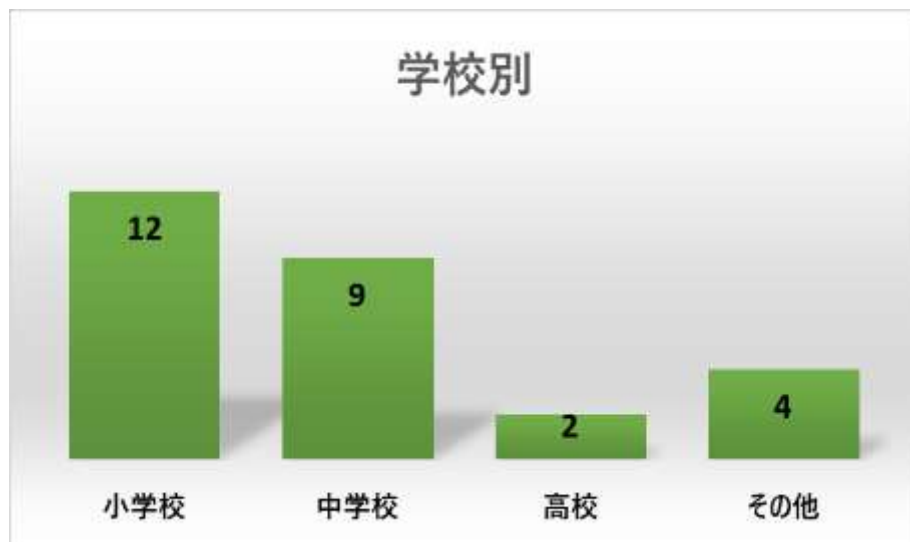




2年目を迎えた 無料電話相談会

2021.8.28・29



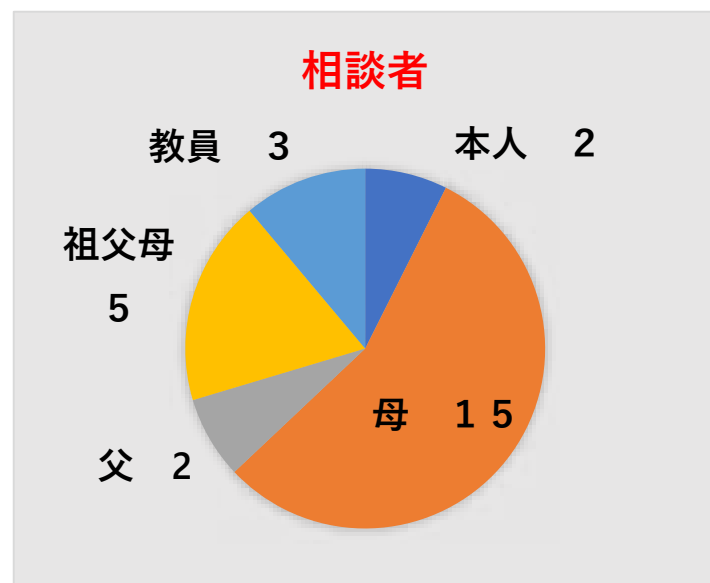


長びくコロナ禍
子ども・親・学校現場の深まる苦しみ

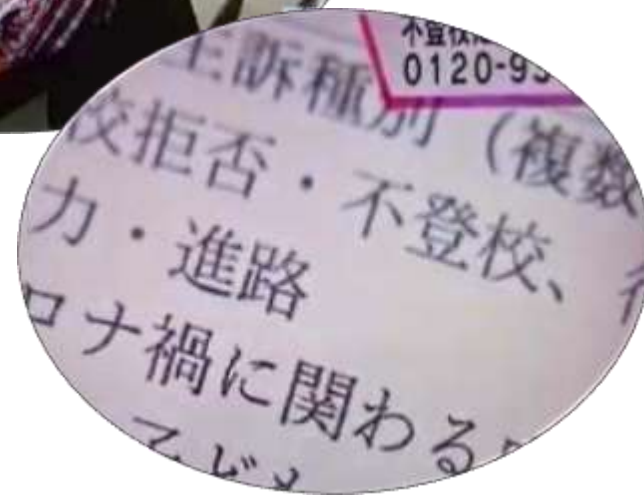
◆ 小学生の相談増加

◆ 死にたい 4件
深刻化する内容

◆ 疲れ切っている保護者たち



TVや新聞に報道されました



8年目を迎える 講演と無料相談会

これまで
府内43か所
(うち大阪市内18か所)

参加者1,878名

地域の方々のご協力を得て
これからも続けてゆきます



家族交流会の声から生まれた

「ひとり立ちのために」が完成

親亡き後
子どもの生活が心配

生活に役立つ
ハンドブックがほしい

親子の語らいの
きっかけになれば



教育相談おおさかの本



登校拒否を克服する道すじ

社会的ひきこもりから自立への歩み



教育相談おおさか 食糧
第38号 2022.2.18

発行：NPO法人 おおさか教育相談研究所 ☎ 06-6762-0232 (火・金 11時～17時)
〒543-0021 大阪市天王寺区東栗津 12-14 たかつビル 2F <http://osaka-edan-main.jp>

[illegible]

地址：天津 郵

◆◆◆ 38号のおもな内容 ◆◆◆	
22年度賛助会員総会のご案内	馬場野 成和 ②
講演と資料研修会レポート その2	柚木健一・遠野とも子 ③
連載15 新しい定時制高校 京都府立豊和高校	小西 順治 ④
連載26 信頼関係ができれば、社会参加……その3	村上 公平 ⑤
発達障害31 大人の発達障害23	香木 道忠 ⑥
第31回 社会的ひきこもり家族交流会	上田 孝子 ⑦
手紙 大切なもの 平塚から見てきたもの①	K.I ⑧
特別展・essay 23 今も続く家高学習帳・見真ノート	山田 道弘 ⑨

賛助会員とつながる

2022年度

賛助会員 継続のお願い

日頃から「NPO法人教育世帯おおさか」への厚れらぬご支援にお礼を申し上げます。
2021年度は、238名の皆様から賛助会費納入のご支援いただきました（1月末現在）。
誠にありがとうございました。

今年、NPO法人化10周年をむかえます

私たち「教育相談おおさか」は、2012年4月にそれまでの「大阪教育文化センター・親と子の教育相談室」からNPO法人に移行しました。

その後今日まで、年間千軒程度の教育相談・学習支援（コロナ禍対策の要素もあり半減で推移）の他に、親子「改訂版」教材配布と協賛する施設（「社会的ひきこもりから自立への歩み」を発行、普及し、とりくに全各自治体の関係店）に応じてきています。また、行政や地域のみならずともに大阪府内各地域での「講座と無料個別相談会」の開催、「コロナ禍に悩む無料電話相談」、社会的ひきこもりの相談に未就されている家族の方々による「家族交流会」の開催、教育現場とのつながりを強めつつ「教材商品との交流会」などを進めてきています。

賛助会員 300 名以上をめざします

こうした活動も、私たちの教育活動に貢献されるたびに協力いただいている「事業活動協力金」、賛助会員の方々からの賛助会費、心を寄せていただける方々の寄付、そして随三社の助成金により財政的に支えられています。

次年度（2022年度）も賛助会員様・知人へのご紹介など、引き続きご支援をいただきたいと思います。心からお願いいたします。同封の「募金用紙」で納入いただければ幸いです。

（理事長 島崎野成和）

(理事長 島根野成和)

郵便振込 記号 00920-5-171671

加入者名：特定非営利活動法人おおさか教育相談研究所

順信卿に「きき年度賛助会費」とお書きください。



第 31 回社会的ひきこもり家族交流会

娘が生きていて
くれるだけで安心



1月22日の家族交流会では、柚木相談員の電話相談事例を聞いて交流しました。
相談者は母親で、当事者は娘さん（32歳・父兄と同居）。

料理もするようになり、母と一緒に買い物にも行き、本人は過敏症で1回着た服を洗濯せずに捨てていましたが、最近洗濯もするようにになりました。

お母さんは娘の元気回復の様子に「ワタナン注射もし、外出もできるようになって、娘が生きているだけでよいと思うようになりました。仕事や読書などは本人に任せます」と言われています。



ひまこも水飲望に、

いじめ・不登校、東北大震災、就職できず辛い大変な思いをされてきた長い年月でしたが、相談を通して家族の絆が結ばれてきたことがわかりました。

PCで得意な絵の表現活動(自分の内面を表現した絵)を始め、ネット閲覧で「いいね」をもっと気持ちよく外に向かうようになり読書会にも出かけるようになりました。
本人はその後リモート読書会に参加した。ホスト役だった日には「今日はしゃべりすぎた」と言いながら、朝晩には坂の花見に家族3人で行き、お父さんも含めて親子関係が劇変になっていきました。



交流会では、現職さんの話と相談員の感想をもとに交流しあい、改めて親の思いを聞くことで親をより、子がほ

っとすると子どもが変わっていくという教育相識の原点を学ばれました。

交流会後半は「ひとり立ちのために」作成に向けて意見交流しました。

(相談員：上田孝子)

「娘は嬉しいところもあって誕生日や敬老の日のプレゼントを買ってくれました」と話されるお母さん。本人の睡眠改善がなくなっています。夜眠れない時は「今晚眠れないかも」と言って母に電話をかけてきて、「電話してくれていいよ」と返ります。



ありがとう
ございました